

人の子の出現

ダニエル書7章

わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに來ると、その前に導かれた。(13)

ダニエル書は前半部分でバビロンの王ネブカデネザルからメディアの王大ダリヨスまでの歴史を記してきましたが、この七章からはダニエルが見た幻が記されています。

この章の幻はバビロン最後の王ベルシャザルの時代に見た幻です。ダニエルは夢の中で海から上がってきた四頭の大きな獣の幻を見ました。この四頭の獣は、バビロン、メド・ペルシャ、ギリシヤ、ローマと、それから後に起こるであろう国々の興亡を表していると言われます。獣のように世界中を食い荒らす国々が興っては消えていく中で、それら人間の傍若無人な支配に終止符を打つのは、やがて來たりたもうキリストであることが13節で告げられています。これはキリストの再臨による神の主権の確立を表しています。主イエスご自身も、世の終わりについて語られた中で、「そのとき、大いなる力と栄光とをもつて、人の子が雲に乗つて來るのを、人々は見るとであろう」(マルコ一三26)と告げられました。キリストの出現によつて、神を恐れぬ人間たちによる支配は終わりを告げ、神による永遠の支配が成就します。ダニエルは混乱する世界情勢の中で、遠くに神の絶対主権を見ていたのです。

この世の王にならうとする者たちが激しく争い合う世界を見つめながら、眞の支配者は主なるキリストであることをわたしたちはしっかりと心に刻んでいたいものです。